



## 遠野市史編さんの 進捗状況と刊行予定

平成27年度から始まった市史編さん事業は、まもなく8年目を迎えます。令和4年2月時点での進捗状況と、今後の刊行予定をお知らせします。

### 各部会の進捗状況

#### 近世部会

資料編の文字組などを決定し、掲載する資料と編目の検討、執筆を行っています。

#### 近現代部会

学校資料などを調査するとともに、資料編に掲載する資料をカードにまとめ、編目構成を検討しています。

#### 民俗部会

資料収集や聞き取り調査を行っています。また今後の執筆に向けて執筆要領や体裁等の検討を行います。

#### 原始・古代・中世部会

##### 原始・古代・考古グループ

資料編に掲載する遺跡の選定を終了し、各委員が執筆を行っています。また遺跡の空撮も行っています。

##### 中世・文献グループ

市内の寺社や館跡、板碑、マイリノホトケなどの資料調査と、資料編の執筆を並行して行っています。

### 今後の刊行予定

■：資料編 ■：通史編

年度 タイトル	令和4	5	6	7	8	9
新編遠野市史		原始・古代・考古 中世・文献	近世	近現代	近世	原始・古代・中世 近現代 民俗
市史叢書	市史叢書3 遠野南部家 御用留書			市史叢書4 遠野南部家 御用留書		

#### 広報とおの

#### 出初式石油不足でパレード中止

恒例の消防出初め式が1月5日、市民センター中ホールで行われました。ことしは石油不足のあおりで消防自動車の姿は見られず、また街頭行進も中止しました。これらのことから消防団員の数も約100人と少なく、いつもより寂しい出初め式となりました。午前10時から式が始められ300人が表彰され12時に終わりました。



#### 昭和49年2月 広報とおのから

左は昭和49年(1974)2月号の広報とおのに掲載された記事です。この前年から第4次中東戦争のあおりを受けて第1次オイルショックが始まり、ガソリンなどの石油関連製品が値上がりしました。消防出初め式のパレード中止もこの影響を受けたものでしょう。今冬もコロナ禍やウクライナ情勢の影響によりガソリンや灯油が値上がりして私たちの生活を直撃しています。日本ではオイルショックの反省から石油の安定的な確保やエネルギー源の多様化が図られてきましたが、石油はまだまだ欠かせないエネルギー源のようです。

# ひな祭り

3月3日



ひな祭りは、平安時代の貴族の子女の遊びであるひいな遊びと、上巳の節句などの信仰行事がルーツであると考えられています。上巳とは3月の初めの巳の日をいい、自分の罪や穢れをヒトガタに移し、水に流すことで祓いを行う風習がありました。このひいなとヒトガタがひな人形の原型となり、16世紀後期には公家や上級武家の間で「ひな遊び」が3月3日に行われるようになっていたようです。その後、庶民の間でも年中行事として行われるようになり、18世紀中頃には「ひな祭り」として女子の誕生や幸福を祝う行事として人々に浸透し、現在のひな祭りの原型がほぼできあがりしました。

遠野のひな祭りの様子は、大正2年（1913）の上閉伊新報で詳しく知ることができます。旧暦3月1日には雛市が立ち、家々ではひな人形や絵画を飾り「小なる美術展覧会」のようであったと非常に華やかな様子が伝わります。また2日は雛に供える菓子を作り、3日になると晴れ着を着て近隣の家をまわり「雛見」をした、と記されています。この風習は、平成12年（2000）遠野商工会を中心に遠野町家のひなまつりとして復活し、現在も遠野に春を告げる観光イベントとなっています。

（上から）古今雛 / 雛道具 / 武者人形 ▶



## ● 遠野の雛祭 迂遠野史

古来三月三日を桃の節句と称し上下おしなべて雛祭を為す風行はる（中略）陰暦三月一日は雛市と称して露店に多くの雛を列ね弓矢などをもひさぐ。村々の人幼童子女相伴ひて之を購ふ。市中の賑ひ平日に数倍し雛には多くの種類あり。中に就き京人形の移入もありつれども土地産の附馬牛製若くは花巻製など半ばを過ぎ今は此等地産雛漸く衰へぬれと廉価なるまゝ、花巻製の呼び聲尚聞ゆされば京雛の骨董店などに出づることあれば競ひ争ひて之を購ひ其価格遙に新製品の上に出づることあり。雛道具に至りても亦共に均しく然り。若し雛市日の陽暦十六に合はざるときは陰暦一日に近き市日を以て雛市日となすなり。いよ／＼一日となりぬれば室内にありては奥の間を撰びて雛壇を構へ上段に内裏雛を飾り次壇に左右大臣官女三神五人雛子其他種々の雛を並列し下壇に多くの諸道具を列ね四方の壁には古今の錦絵を貼る。錦絵には風俗画あり教育画あり戯画あり諷画あり約言すれば小なる美術展覧会とも謂ひつべけんか。二日は雛に供ふる菓子を製造する日にて各戸多忙を極む。前日来準備せる原料にて雛菓子を製し明日の祭に用るのみならず近親懇家に贈り又贈らる。三日となれば待ちに待ちたる其の日なり。兒女等今日を晴れと着飾りつゝ雛見と称して近隣を遊観す。到る所にもてなざるゝ点心は餠餅あり蓬餅あり菓子あり果物あり甘酒あり白酒あり蟹あり野老ありおすゝありあさつき鱈あり好みにまかす山海の珍味啻に女子に限らず大人も為めに枯骨潤ふべし。これはこれ現今遠野に於ける雛祭の概況なり。（後略）

上閉伊新報 大正二年（一九一三）四月五日